

# アイデンティティ

私たちの住む地元金城地域の歴史・史跡などをよく理解し、普段何気なく通っている場所にも関心を深めていきましょう。

# 金城地域の歴史跡

## 金城の御嶽



金城中学校門前の金城公園内の小高い頂上付近に金城の御嶽があります。

沖縄戦後に土地を徴収され、御嶽は基地の中となってしまいましたが聖地として保護されてきました。

金城の人々は御嶽が望める方向に拝所をつくり祈りをささげていました。返還後もとあった場所に戻され、現在の金城の御嶽となっています。

## 安次嶺の御嶽



国道331号線沿いのバス停「航空隊

前」後ろの階段を登ると、安次嶺の御嶽があります。そこにある安次嶺の殿は、戦後接收された土地を向いています。

高台になっている安次嶺の御嶽は、階段を上りきるとすぐの場所に石獅子がいて、円柱型の台座の上でにらみをきかせています。御嶽内には複数の拝所があり安次嶺地区の聖域となっています。

## 田原公園のフール



「田原公園」の敷地内には、フールがあります。このあたりにあった「フェーメーシチャグイ」さんの家にあったものだそうです。案内板によると『フェーメーシチャグイ』とはかつてここにあった家の屋号の事で、『フール』というのは豚便所の事です。

石積み凝った技法で、明治時代の終わりから大正時代の初めころに造られたものと考えられてるそうです。

## 赤嶺に沖縄初のレンガ校舎『当間学校』

赤嶺駅の目の前、赤嶺2丁目付近には戦前、小禄尋常高等小学校（通称：当間学校）があったそうです。

1880年（明治31）に小禄間切番所内（現字小禄）に置かれ、1891年（明治24）頃、赤嶺村（現在地）に移され、その所在地から当間学校と呼ばれていました。

1923年（大正12）に改装され、赤レンガ造りの2階建て校舎2棟が建設されました。沖縄県初のレンガ校舎で『レンガの当間学校』と有名になったそうです。



『当間学校（小禄尋常高等小学校）  
/ 画像提供：那覇市歴史博物館



当間学校跡地に建つ県営赤嶺市街地住宅

## がじゃんびら公園

「がじゃんびら」は、沖縄方言で「蚊（がじゃん）+坂（ひら）」という地名のことです。その昔、まだ沖縄に蚊がいなかった頃に中国から蚊を持ち帰った人がいて、それをこの辺りの坂道でうっかりと逃がしてしまい、それから沖縄に蚊が広まったという伝承にちなむものとされています。

公園高台から那覇を見渡す景色は素晴らしく、返還地の名残なのか、都会にありながらゴツゴツした岩肌がそのまま残っており、ワイルドさも感じます。

### 「高射砲陣地跡」

台座以外は特に高射砲に関する遺構はなく、何も知らなければただの広場です。周囲を見てみると、垣花台地の高台にあるこの公園からは、那覇軍港や三重城跡、那覇空港まで見渡すことができます。

昔は現在のように高い建物は無いので、さらに遠くまで見渡せたことでしょう。高射砲が置かれた理由も分かります。



高射砲陣地跡

### 美空ひばりの歌碑

美空ひばりの歌が聞けます。公園としては、遊具もなく何もないのに、どう言う訳か美空ひばりの歌碑があります。

オートサウンドセンサーで「花風の港」が聞けます。